

## 大山街道八王子道・千人同心日光往還道ウォーク

第6回 武蔵高萩駅から入間市駅

計画 歩行距離 約9km。

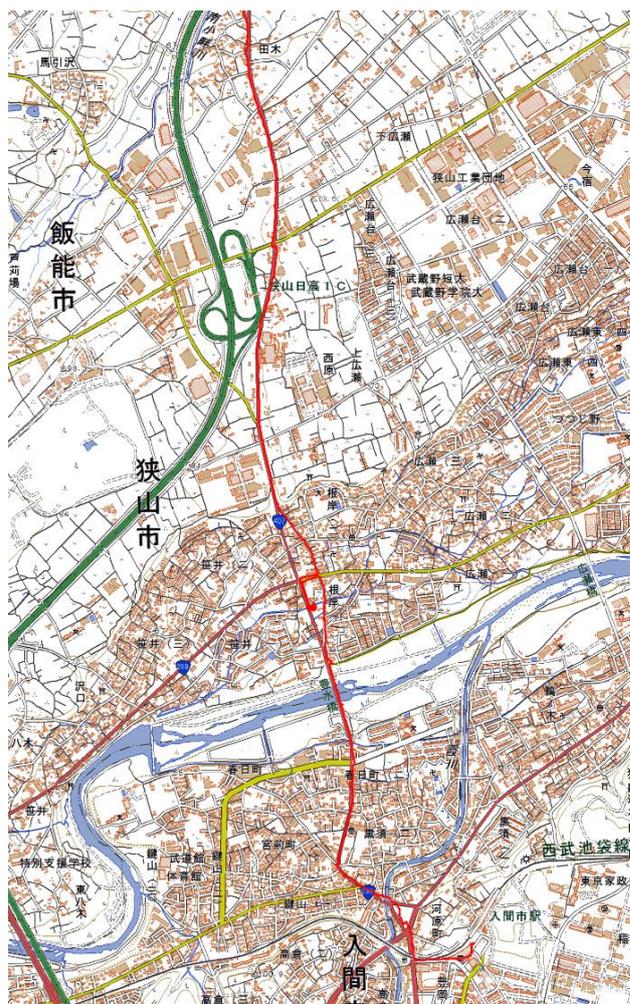
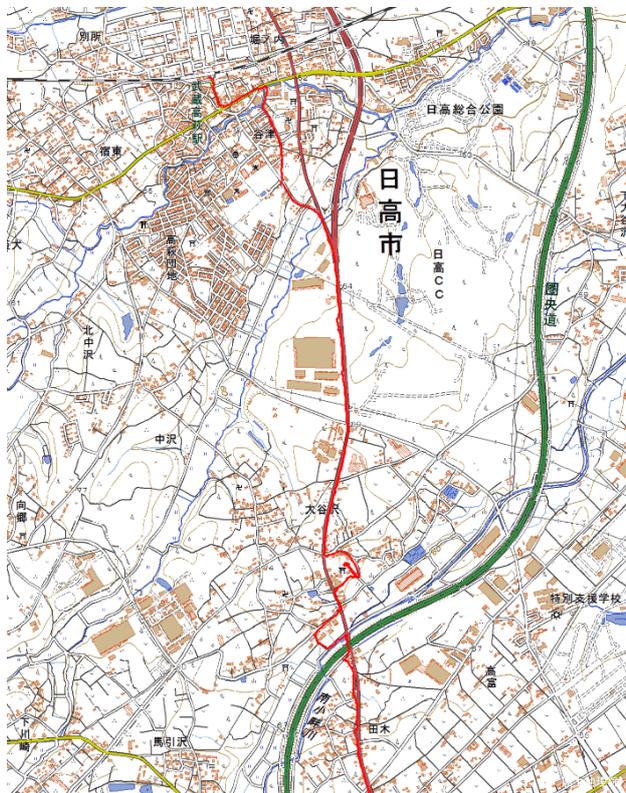
### 第6回 武蔵高萩駅から入間市駅

実施日 2020 (R02) 年12月16日 (水) 天候 快晴のち曇り 気温低く最高温度8度位

参加者 杉田 勝行、前北 勝司、中田 信義、中島 征雄 計4名

コース 武蔵高萩駅改札口～第二小畔川～日光街道杉並木看板～馬頭観音～国道407号線～旧日光千人街道看板～鎌倉街道交差点～白鬚神社～南小畔川～圏央道～軍馬供養馬頭観音～石仏群～根岸宿問屋跡・日光脇往還標柱～根岸の渡し・入間川・豊水橋～豊岡町道路元標・旧黒須銀行～入間市駅

写真は、2019 (R01) 年5月17日と今日のものを使用。



GPSデータ

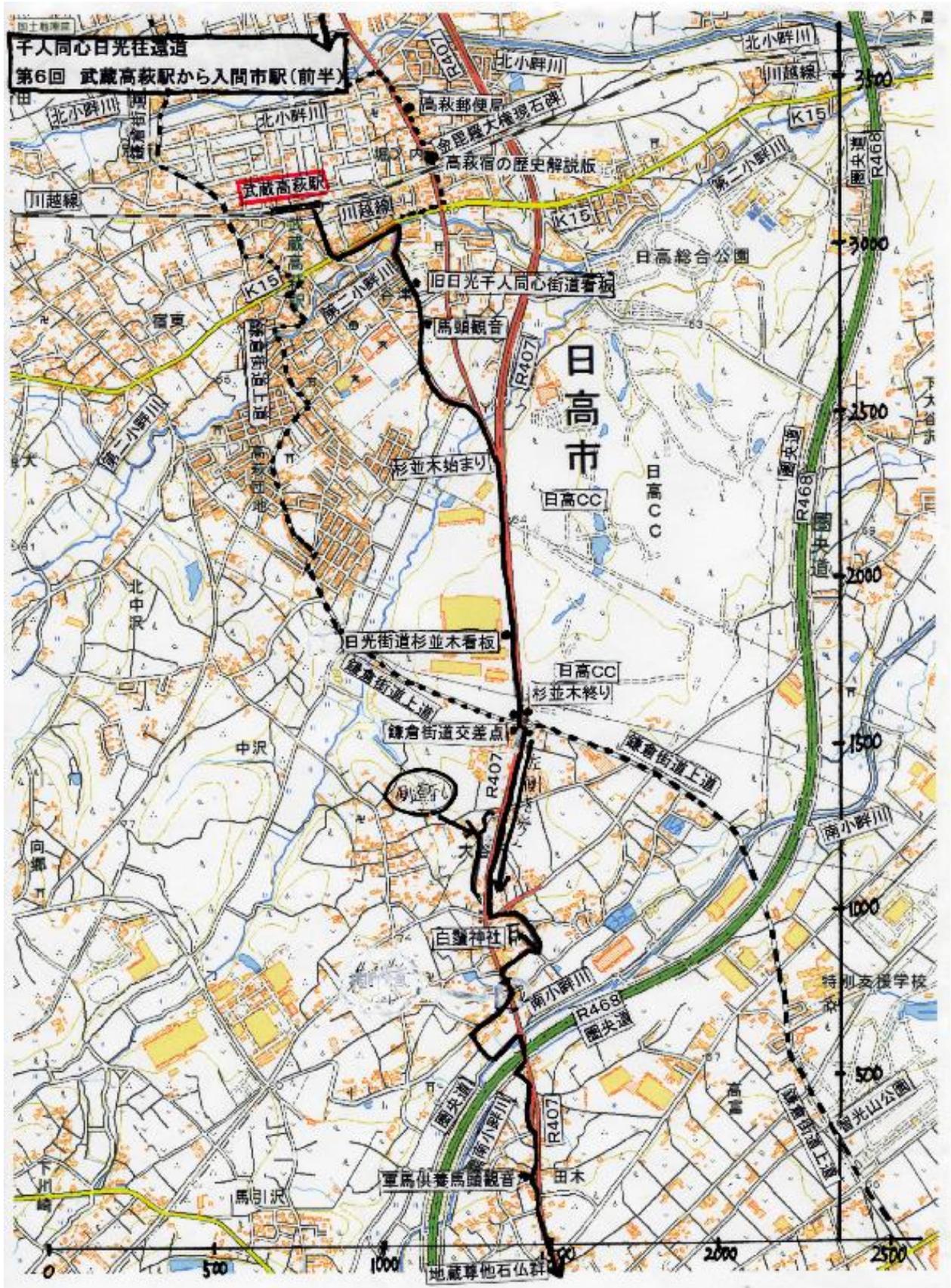
歩行距離：9.5km。 累計歩行距離 54.4km。

全体所要時間：3時間09分。移動時間：2時間33分。停止時間：36分。

移動平均速度：3.7km/h。全体平均速度：3.01km/h。

※先日メールにてお届けしたMAPで、日光街道杉並木看板と旧日光千人同心街道看板を逆に表示してしまいました。申し訳ありません。

朝は、空は雲は全く無く、遠くの山々がくっきりと見える素晴らしい天気だが、今期、一番の寒さ。待ち合わせの時間までは日向にいないと凍ってしまう。





9時47分に武蔵高萩駅南口を出発。いつも参加される折本さん、伊藤さんが不調のため欠席。4名でのウォークは寂しい。



駅前通りを下り、県道15号線に突き当たるので信号を渡り左折。信号から約210mの右手の川に架かる橋を渡り、川に沿って進み、突き当りで左折。



道なりに上って行くと、昔の高萩宿の地図に載っていたとおりの谷雲寺の西の道の左脇に「旧日光千人同心街道」の看板があり(9:58)、それには「高萩宿まで約350m⇄根岸宿まで約5.5km」とある。



少し先の左の生垣に角に「馬頭観音」の石柱がある。

高萩小学校の先から急な下りとなり、左からの道(高萩交差点から来る車道)に合流し右折し、坂を上りきると高萩南交差点で国道407号線に合流するので国道を進む。(10:06)



国道の左手には「日高カントリークラブ」の境の杉並木が続く。また、国道の右側にも杉並木が続き、

合流から**300m**程の右側に日高市観光協会・日高市日光街道杉並木が保存会は建てた「日光街道杉並木」の看板がある。



そこから**400m**程に「鎌倉街道交差点」があり、杉並木は終わる。左右に通る道は、鎌倉街道上道で**2017(H29)年11月15日**に鎌倉街道上道ウォーク第9回で皆とここを通った。その時は、武蔵高萩駅から狭山市入曽駅まで歩いている。

この交差点からは道の左側の側道を歩く。少し先から右側には側道が無くなるので。鎌倉街道交差点から**570m**程進んだ大谷沢信号交差点を左折し、**40m**程の三叉路を右に、右カーブして**80m**程の三叉路も右の道を進み、**100m**程の三叉路の角右奥に「白髭神社」がある。



創建、由緒等は分からないが、大事に守られてきたものと感じられる。白髭神社は、この辺りに多く、如何に渡来人が多かったかを思い起される。

白髭神社で休憩（1034～45）

神社から西へ向かう道で国道に出て左折。**80m**程の横断歩道で国道を横切り、「日高市児童ふれあいセンター入口➡」看板を見て、直進する。



**150m**程で左折し（旧道は、先ほどの大谷沢交差点からこの辺りにつながっていた）、圏央道手前の

南小畔川に突き当たるので左折し、国道に出る。(旧道は、南小畔川、圏央道を横切っていた)



国道を右折し南小畔川を渡り、圏央道のガードを潜って(10:55)、直ぐ右折して圏央道に沿った道を行き、40m程左折すると国道の信号交差点に出る。



右折するのだが、歩道が無いので斜め右の道を進む。120m程左にカーブして進むと国道に出る。



その先で、また国道から離れる道があり(国道には側道が無い)、進むと左カーブの右角に晴葉号という馬の供養する「馬頭観音」供養塔がある。

再び国道に合流、次の「田木」の交差点の南西角に「地藏尊他石仏群」がある。



田木交差点から**320m**程で狭山市に入る。(11:09)



次の交差点「狭山日高 I C 東」で県道**397**号線を横切り、圏央道の I C のループの脇を進み、下りが始まるとすぐに国道は右斜め後ろから来る県道**262**号線と合流。合流して**340m**程で街道は国道から分かれ左への道を進む。



宿の感じが残る道を230m程下った右側に、まことにそうであろうと思われる「根岸宿問屋跡・久下家」がある。その左脇に「日光脇往還（脇街道）」の標柱がある。



信号交差点で県道262号線を横切る。この辺りが根岸宿の中心。ここを右折し、国道に出て、その先の「松屋」で昼食とする。(11:41~12:12)



旧道に戻って進み、交差点から50m程で斜め左に入る  
道が旧道だが、現在はこの先の小川で行き止まりになっているので、直進の道を進む。





240m程進むと国道299号線に合流する。その先で国道は豊水橋で入間川を渡る。橋の左堤防に「根岸の渡し」の標柱がある。川の中程に「魚道」が整備されている。





豊水堰魚道を見ながら入間川を渡ると入間市に入る。国道を進無と（なるべく国道の右側を歩く）右手に古民家があり、その先にあった長屋門は「繁田醤油」の旧工場であった。



この長屋門は江戸時代の建築で、繁田家12代満義、13代翠軒は黒須銀行の創立発展に努めた。翠軒の兄・発智庄平は霞が関CCの創設に大きな役割を果たした。

その隣に市指定有形文化財（建築物）の「旧黒須銀行」があり、その右側のツツジの植え込みの後ろ「豊岡町道路元標」の石柱がある。（12：39）



## 旧黒須銀行

市指定有形文化財（建造物）  
 指定年月日 平成二年四月一日

この建物は、明治四十二年（一九〇九）五月に黒須銀行本店として建設されたもので、土蔵造二階建、寄棟造瓦葺、総床面積二三六・〇二㎡の建物である。

黒須銀行は、明治二十七年に設立された黒須相互組合を前身に、明治三十三年二月に誕生した。その経営は、創設時の中心的人物・繁田武平満義の考えから道徳を規範としたもので、大正三年（一九一四）には顧問の洪沢栄一から「道徳銀行」の名を与えられ、順調に業績を伸ばした。しかし、第一次大戦後の不況の影響により、大正十一年六月に武州銀行と合併して幕を下ろした。

その後は昭和十八年（一九四三）七月に埼玉銀行（現埼玉りそな銀行）豊岡支店となり、昭和三十五年十一月まで営業が行われていた。

昭和四〇年三月からは郷土民芸館として市が借用していたが、昭和五二年七月に埼玉銀行より敷地を含めて市に寄贈された。

現在は、当市の近代金融史を象徴する遺産として大切に保存されている。

平成十七年三月一日



入間市教育委員会  
 入間市文化財保護審議委員会

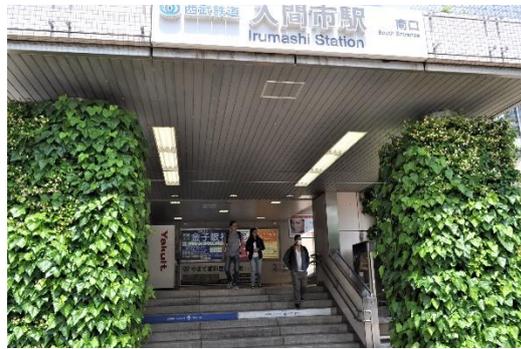




霞川を霞橋で渡り、三叉路を右に進み、国道16号線を横切り県道463号線を「KONAMI SPORTS CLUB」の看板あるビルの方へ進む。この道は上りとなるが、黒須坂といい、明治34年に開業した中武馬車鉄道（現在の狭山市から入間市を通り青梅までを結んだ）が通っていた。



西武池袋線のガード潜り、すぐ左折し坂を上って右にカーブする所に歩道橋があり、その下の左折して路地を進むと入間市駅前のロータリーに出る。直ぐに駅がある。12時55分到着。



今日はここまで。